

学会発表渡航支援報告書

(ふりがな) 氏 名	もり まさこ	所属・職名
	森 雅子	京都大学大学院文学研究科 文献文化学専攻 中国語学中国文学専修 D3
e-mail		
発表題名	或る女性の影—周作人の文学的出発 一個女人的影像—周作人の文學之路的起點	
著者名	森 雅子	
会議名 (英語)	“中國語言文學與社會文化” 研究生國際學術研討會 International Graduate Symposium on Chinese Language, Literature and Culture	
開催地(国、市)	中華人民共和国 南京市 南京大学	
参加期間	2009年7月5日~7月9日	

本学会は中国文学、言語、社会、歴史、文化研究それぞれの枠組みにとらわれることのない、博士過程学生の一層の交流、相互理解を深める意見交流の場のひとつとして、香港浸會大学中文系によって2003年に発足した。第3回目の今年は、7月5日から9日にかけて、中華人民共和国南京市、南京大学文学院において開催され、中国大陸からは勿論のこと、香港、台湾、韓国、シンガポール、イギリス、日本の大学院33校より計136名の博士研究生が参加した最大規模の大会となった。

報告者は7月7日に自らの論文「或る女性の影—周作人の文学的出発（一個女人的影像—周作人の文學之路的起點）」について約10分間の発表をし、同日香港大学史言氏の論文「金庸筆下的“大理”：從場所研究到身體感議題」についてのコメンテーターをつとめた。本学会では提出論文、発表ともに中国語が使用された。

◎ 発表内容

報告者は近代中国における女性論、性科学の紹介、児童教育等の分野での開拓者である周作人(1885~1967)の研究(とくに周作人と性科学)に従事している。今回の発表は周作人の初期の論説に焦点をあて、その後六十年余に及ぶ文筆生活にそれらの言説がどのような影響を及ぼしているかについて考察したものである。

周作人は晩清に女性啓蒙雑誌『女子世界』に投稿することで文学的出発を果たす。当時の思潮の主流であった梁啓超の、強く新しい女性「女豪傑」を希求する主張に染まっただけのようにもみえるその文章の内には実は彼の個人的体験(恋愛)が潜んでいる。思いを寄せた女性が「家」と「家」との伝統的な結婚によって押しつぶされていく過程をみつめることしかできなかった青年期の体験は、中国近代の夜明けである五四時期になされた彼のいわゆる「女性の発見」の素地の一つとな

学会発表渡航支援報告書

り、六十余年に及ぶ文筆生活において、女性の解放、自由恋愛による男女の平等な結婚とそれを基盤とした家庭における児童教育を訴えることに繋がっていく。

本学会では、周作人の個人的な体験を通して、中国近代知識人がいかに「女性」を、「性」を発見したかを明らかにした。

◎ 発表についてのコメント

南京大学中文系王晴飛氏によってコメントがなされた。主に報告者の周作人の筆名に関する「読み」について指摘がなされた。

報告者は周作人が『女子世界』に発表した文章が一体どういう意味をもつのかを読み解く有力な鍵のひとつとして、彼の筆名を手がかりとした。みずからの心情をあからさまには露さない周作人にとって、筆名は彼が真情を潜ませることのできるひとつの場所であった。報告者はその点に注目し、周作人が当時密かな思いを寄せた女性の存在と、彼の日記や後の回想、関連する資料から彼女の悲惨な結婚生活とそれを救えなかった彼の後悔を見だし、彼女が周作人をいわゆる当時の「女性啓蒙論」へ導き、生涯に渡る重要なテーマを生む原動力になったことを明らかにしたのだが、王氏の意見は当時の筆名には周作人の漂泊して定まらない心情が表されているとする表面的な理解であり、その見解には承服できない。

